# ぶらっと散策４

探訪（第４回）　2023 年 7 月 6 日　　***　山崎コース　***
今回の概略コースは以下の通り
　阪急大山崎駅→歴史資料館→離宮八幡→関大明神→妙喜庵→山崎宗鑑碑→
　大山崎瓦要窯跡→東の黒門跡→ねじりまんぼ（トンネル）→夢ほたる公園
　→明智光秀本陣→阪急西天王山駅

（１）9:50 に阪急大山崎駅前の歴史資料館に集合。
　大山崎ふるさとガイドの会から資料館の展示内容の説明を受ける。古代・中世・近世に亘る大山崎の歴史・文化・地理について概略を学習した。１～４各班に各２名のガイドが付いていよいよ探訪が始まった。

歴史資料館に集合後展示室へ（写真不可）

（２）資料館から南西に少し歩いて「離宮八幡宮」に向かった。
本宮は「河陽離宮」の跡に創建、西日光とも言われたこと、また「本邦製油発祥地」でもあり「自治都市・大山崎」の中心でもあったとの説明あり。

（３）次に離宮八幡宮から北側直の所にある「関大明神」に向かった。山城と摂津の国境に位置し山崎の関所や貴族の宿泊所があった場所に立つ社である。「関西大学の守護神である」と冗談をいう御仁もいた。ここから、ＪＲ山崎駅前の妙喜庵に向かった。ただし妙喜庵へは事前の予約が必要であり、表玄関の構えを眺めるだけに終わった。なお、妙喜庵にある茶室「待庵」については「歴史資料館」に同サイズのレプリカがありこれを見ることで我慢することとにした。駅前で一旦解散となり、各班に分かれて昼食を取ることになった。

離宮八幡宮の前の木陰で概略説明を受ける

離宮八幡宮門前の外観

従是東山城國の石碑

関大明神の社

妙喜庵の前で建屋外観を眺める

（４）山崎宗鑑　句碑
午後の日差しはさらに強くなった。天王山の麓をＪＲ線に沿って歩いて木立の下に「山崎宗鑑」の句碑に辿り着く。宗鑑は戦国時代の人で近江から出て山崎に庵を結び後山崎宗鑑と呼ばれたとこと。俳諧・連歌の祖と言われる。

山崎宗鑑の句碑

（5）大山崎瓦窯跡

強い日差しの中を阪急の線路に沿って北に歩いて「史跡・大山崎瓦窯跡公園」に至る。平安宮の所用瓦を焼成した平安時代前期の瓦窯跡で 10 基が埋没保存されている。見晴らしの良い高台から下方に瓦窯跡が見える。阪急・ＪＲ線の遥か向こうに「男山」の頂きと八幡の住居が見える。

大山崎瓦窯跡

（6）東の黒門跡と石敢當（せっかんとう）

500mほど北に歩いて東の黒門跡といわれる所に辿り着いた。この位置に自治都市・大山崎荘を守るための黒門があったとのことだが史跡らしいものは皆無。そばに「石敢當」と刻んだ石柱が立っている。どうやら魔除けらしい。このあたりで探訪のメンバーに疲れが見える。

石敢當

（7）ねじりまんぽ

西国街道を北へ１ｋｍほど歩いてＪＲ京都線の盛土に掘られた小口径のトンネルに出会う。これが「ねじりまんぽ」と言われるもので、「まんぽ」とはトンネルを意味するらしい。鉄道路線に対しトンネルの軸線が斜めとなる場合にレンガをらせん状に積んでアーチを構成して強度を確保するらしい。コンクリート構造が採用されるまでの土木技術で現在では珍しい土木遺跡であろう。

ねじりまんぽ

（8）夢ほたる公園

「ねじりまんぽ」から東へ約500m歩き、小泉川を越えた所が「山崎合戦古戦場跡」である。丁度、京都縦貫自動車道のガード下で日陰のやや涼しいところで山崎合戦の説明を受けた。この場所から遥か西方天王山を眺めながら、秀吉と光秀の布陣を思い描いた。

また季節には小泉川にほたるが飛び交うのであろう。

山崎合戦古戦場跡

（９）明智光秀本陣跡

いよいよ最後の探訪地である。強い日照りの中、光秀本陣跡を目指す。死の行進の如しとのたまう御仁もあり。やっと辿り着いた地点には「明智光秀本陣跡」と刻まれた石柱が立つのみであった。その脇に説明板があり、ガイドさんからこの場所は古墳時代前期後半の前方後円墳「境野一号墳」があった所で見晴らしもよく本陣を置くのに適していたとの説明があった。

　これで本日の探訪は終了となり午後 3 時ころ解散。約 1 km 先の阪急西山天王山駅に向かうことになった。

出席 30 名　欠席 6 名　CA 3 名